

主催：（公社）日本歯科技工士会
（一社）山口県歯科技工士会
後援：厚生労働省

山口県歯科技工学術大会

2025年11月8日(日)

佐藤 幸司 先生
(公社)日本歯科技工士会生涯研修認定講師



タイムスケジュール

13:00 歯科技工士と歯科衛生士の役割
14:00 休憩
14:15 歯科治療へのONE TEAM
16:00 終了

デジタルデンタルショー開催

株式会社玉井歯科商店共催
歯科メーカー12社による展示会

会場

下関市立勝山公民館 3F 講堂
山口県下関市秋根南町2丁目4-33
Tel 083-256-2779

(公社)日本歯科技工士会生涯研修認定講師
佐藤補綴研究室（名古屋市開業）

演題 『デジタル時代に再考する義歯の咬合と本質』
生体に調和する咬合を考える

（抄録）

近年口腔内スキャナー、ラボスキャナーを用いたデジタル咬合解析技術の発展に伴い、術者の経験値や感覚に依存していた咬合を客観的に記録し分析することが可能となって来ている。

一方で、咬合を単純に捉えるだけでは、生体機能を営む複雑な下顎運動や咀嚼機能を十分に理解することはできない。

特に天然歯列の咬合と異なり、総義歯とりわけ無歯顎補綴では、咬合を支持する歯根膜感覚が存在しないため、適切な咬合高径、咬合平面、下顎位、人工歯排列、咬合様式、により義歯床の支持、維持、安定が相互に関係し義歯床の機能・審美に大きく影響するのである。

日本補綴歯科学会・日本歯科技工士会においても、総義歯の咬合研究の歴史も深く、下顎位においても、中心位、中心咬合位、咬頭嵌合位などの概念について継続的に議論されてきている。

本講演では、従来の理想的な咬合を追求する考え方から、一歩進み患者固有の顎口腔系の形態と機能に調和した「機能的咬合」という視点から症例に応じた咬合平面の設定、ニュートラルゾーンに人工歯排列を行い、症例に応じた咬合接触と咬合様式を考察し、下顎運動を客観的に捉えた臨床術式を紹介する予定です。

今後、デジタル技術の進展は、咬合を「見える化・数値化」する手段である。しかし数値化が治療目的ではなく、その数値化を示す情報を生体機能と関連付けて解釈することが重要と考える。

咬合は、単なる上下顎歯列の咬合接触だけでなく、歯列、顎関節、咀嚼筋、神経筋機構、さらに義歯床と支持組織を含め多機能系として捉える必要がある。

超高齢化やデジタル技術が急速に進歩する現在だからこそ咬合の本質を再確認し、感性工学を融合させた新しい咬合解析と咬合構築の方向性を考察し、ご参加戴いた先生方とディスカッションできれば幸いです。

佐藤補綴研究室
佐藤 幸司



佐藤補綴研究室 佐藤幸司

【略歴】

- 1976年 大分県歯科技術専門学校卒業
納富哲夫先生に師事（霞ヶ関歯科ポストグラジュエートセンター）
戸井歯科診療所勤務：安部歯科医院勤務
- 1985年 佐藤補綴研究室開設
- 1980年 東海歯科医療専門学校非常勤講師
- 1985年（公社）日本歯科技工士会生涯研修認定講師
- 1990年 名古屋市立大学医学部研究員第一解剖学教室入局（2006年まで在籍）
- 2002年 BPS公認 国際インストラクター（イボクラール）
- 2003年 明倫短期大学 臨床教授（2020年3月まで）
- 2009年 台北医学大学口腔医学院 臨床教授（2010年3月まで）
- 2009年 名古屋歯科医療専門学校 非常勤講師
- 2017年 神奈川歯科大学顎咬合機能回復補綴医学分野 特任講師（2023年3月まで）
- 2023年 愛知学院大学歯科技工専門学校 非常勤講師

【著書】

- 『効率的な総義歯製作の技法』（共著・1998年 第一出版）
- 『初心者のための総義歯製法』（共著・1999年 クインテッセンス出版）
- 『下顎吸着義歯とBPSパーフェクトマニュアル』（共著2011年クインテッセンス出版）
- 『技工に強くなる本』上、下、巻（共著・2012年 クインテッセンス出版）
- 『超高齢社会を見据えた』パーシャルデンチャーの製作（編著・2016年 医歯薬出版）
- 『エビデンスに基づく総義歯製作』書籍（著・2018年 医歯薬出版）
- 『生体情報から考える補綴装置の咬合コンセプト』（編著・歯科技工別冊；2019年 医歯薬出版）
- 『デジタル時代に生きる総義歯哲学』 書籍（著・2025年9月 医歯薬出版）

臨床技工：困った問題解決講座（総義歯編）20カ月間連載（2007年～2008年）クインテッセンス出版

人工臓器としての総義歯製作4つのポイント・エビデンスに基づいた知識と技術（2011年冬号～4回連載）ZERO 永末書店出版

歯冠修復にも必ず役に立つ「咬合平面」の考察と決定法（2014年1月号・2月号）QDT・クインテッセンス出版

力学的・生理学的観点に基づく人工歯排列のガイドライン（2014年4月号・8月号連載）歯科技工・医歯薬出版

総義歯臨床に求められる臨床歯科技工学・対談（2014年夏号）ZERO・永末書店

（2015年4月号より隔月連載）歯科技工・医歯薬出版

オーバーデンチャーの概要と咬合のガイドライン：日本歯技：学術 2020年10月号



数年前から歯科技工業界にCAD・CAMが導入されデジタル化が進んできたが、昨年12月の3Dプリントデンチャーが保険診療に入るなど、ますますのデジタル化、DX化が進んでいくと思われる。

歯科医院にも、iOS（口腔内スキャナー）がどんどん導入されていくなか、歯科技工士としてのアナログ技術だけでなく、知識、経験、また模型分析を数値化することによるエビデンスを持った技工物作製などが必要となってくる。

今回の佐藤幸司先生の講演で、日々の歯科技工の業務にますますの発展をされることに期待いたします。

是非この機会を活用して頂きたく、山口県歯科技工士会として、せいっぱい準備してまいりますので、お知り合いの方を誘い合わせの上ご来場してもらえると幸いに感じます。

この度は、メーカー12社も展示していますので、楽しんでいって下さい。

山口県歯科技工士会 学術理事
大前淳登

歯科技工士が減少していく中CAD/CAMや3Dプリンターなど、デジタル歯科技工が保険診療に収載され、現場ではAIデザインの普及など、私が歯科技工士のライセンスを取得した頃では考える事のできなかった事が現実になり、歯科技工業界における新時代の到来考えます。

デジタルでできる事はこれからもどんどん増え、歯科技工士の立ち位置も変化していき、今後の歯科医療界における歯科技工士は、どんな事を求められ、どのような準備が必要かを常に考えさせられております。

今回講演を下さる、佐藤幸司先生は『歯科技工とは!!』という根幹の部分をお話しくださるの方なので、是非皆様ご参加頂けたらと思います。

今回、山口県歯科技工士会は、株式会社玉井歯科商店様の協力を仰ぎ、デジタルデンタルショーを開催する運びとなりました。歯科メーカー12社が集い、iOSを始めデジタル機器の展示をご準備頂きました。最新機器に触れ、新しい情報を見つけて頂けたら幸いです。

山口県歯科技工士会 学術委員
内田英樹

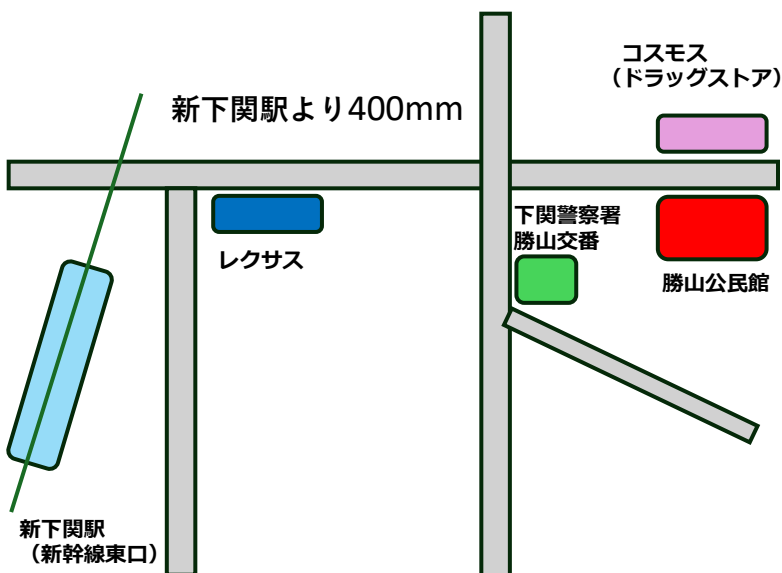
【共催】

・株式会社玉井歯科商店 下関店

【協力・出展】

- ・株式会社モリタ
- ・株式会社ヨシダ
- ・株式会社ジーシー
- ・株式会社松風
- ・YAMAKIN株式会社
- ・白水貿易株式会社

- ・デンツプライシロナ株式会社
- ・インビザラインジャパン合同会社
- ・大栄歯科産業株式会社
- ・クルツアージャパン株式会社
- ・トクヤマデンタル株式会社
- ・株式会社モモセ歯科商会



※無料駐車場90台完備
新下関駅周辺にコインパーキング
多数あり（有料）

山口県歯科技工士会
生涯研修（11月8日）
受講QRコード



山口県歯科技工士会
ホームページ
QRコード

